

## 2021年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第1回研究会報告

報告者 今永典秀（東日本支部運営委員）

2021年12月5日（日）に第1回の研究会をオンライン形式（Zoom）にて開催いたしました。今回の研究会では、「秀逸なインターンシップの事例から学ぶ」をテーマとして、第4回榎本記念賞「最も秀逸な事例」を受賞された工学院大学の事例発表と意見交換が行われました。

運営委員の高澤陽二郎先生による司会のもとに、東日本支部長の松坂暢浩先生による開会挨拶と趣旨説明が行われた後、工学院大学 教育推進機構教授二上武生先生より「低学年インターンシップの導入等、多様なインターンシップの展開」と題して報告をいただきました。具体的な内容としては、次の3つの観点について方向がありました。1.学内での既存のインターンシップの改善:教育の質を上げることと、参加者数・参加率を上げることを目指した改善について説明いただきました。特に、受入企業とのマッチング率向上に向けた事前学習での企業選定の方法や学生の参加目的を明確にするための指導内容について説明がありました。2.キャリア系科目の中でのインターンシップを体系的に位置付け:学部との連携や既存科目との体系的な連携を踏まえた協力を取り付ける工夫について説明いただきました。また、ルーブリックとキャリア形成の軸を入れたキャリアデザインノートの活用について説明がありました。3.新たなインターンシップの展開:新規に立ち上げた多様なインターンシップの中で、中小企業との連携や低年次でのプログラムの詳細や目的、外部の経済同友会との連携などについて説明がありました。

その後の意見交換では、チャットで受け付けた質問を基に、二上先生に回答をいただきました。最後は、松坂支部長からご挨拶いただいた後に、これまでの榎本記念賞の設立から発展に貢献いただいた田中宣秀先生からコメントを頂戴しました。

今回の参加者は18名でした。14名よりアンケートの回答があり、研究会の満足度は「大変参考になった」「参考になった」あわせて100%でした。また、今後取り上げて欲しい内容としては、今回のような記念賞の取り組み事例や、企業プログラムの事例、オンライン型、国際インターンシップ、研究発表と実践報告の違いや、実践報告に向けての実践や調査の設計などの要望がありました。

当日は大きなトラブルなく終わることができました。これも支部役員の皆様および参加者の皆様のご理解とご協力のおかげであると考えております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。